

舊典  
類纂

皇位繼承篇

卷一卷二

一

76

6266

1

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

明治十一年八月刊行

舊典類纂  
皇位繼承篇

元老院藏



去五味均平藏



76  
6266  
1-6

7 6  
號 6256  
卷 1

衺

亂

永

錫



明治十一年六月

陸軍大將兼議長議定官  
二品大勲位親王熾仁



方

謹按

天祖授神器于皇孫曰寶祚之  
隆當與天壤無窮矣至于  
太祖神武大業討伐之歲平定寰  
宇定宅區夏定天日嗣以開萬世之  
基一系相承至于

戶之歷在二百二十有餘閱歲之子  
五百之八年猗歟盛矣此雖出  
于祖宗歷世之功德抑亦嫡長  
繼承之定制之因矣竊惟繼承  
之制首立嫡長時或立賢立功其意  
純正不敢參以私心及至後世往往  
不遵祖宗遺制禍亂相踵而

起豈可不戒哉本院屬有類纂  
舊典之舉而正位繼承篇先  
成定為書分區周遊陳及廢立  
等之目類纂歷舉無所遺而  
是泐得失之故治亂隆替之跡昭  
乎若視諸掌如歐漸列國亦  
用意於繼承之事設之憲法

不敢恣移易尔所以绝窥窬於未然防蒞究於未萌焉今夫皇位之继承考之此篇察是非得失之故詳治亂隆替之跡著為憲法則保平南北之事永絕而寶祚果當與天壤無窮矣  
紀元二千五百三十八年 明治

十一年六月

元老院幹事正四位勲二等  
柳原前光撰并書



舊典類纂 皇位繼承篇

總目

卷一

皇位

皇統

天神授國ノ事

葦原中國ノ主ノ事

寶祚無窮ノ事

天ノ日嗣ハ必ス皇緒ヲ立ツヘキ事

御代數ハ神武天皇ヨリ數ヘシ事

代數ト世數トノ差別ノ事

世數捷覽圖

皇位ノ繼承ニ正位ト不正位トノ別アル事

皇位繼承篇 總目

正位

不正位

皇位繼承一覽表

卷二

皇太子

皇太子ノ皇位ヲ繼承セシ事

皇太子ノ皇位ヲ繼承シテ後仍天皇ト稱セサリシ事

皇太子ノ群臣ノ勸進ニ從テ皇位ヲ繼承セシ事

皇太弟

皇太弟ノ皇位ヲ繼承セシ事

皇嫡孫

皇嫡孫ノ皇位ヲ繼承セシ事

日嗣皇子

日嗣皇子ノ皇位ヲ繼承セシ事

卷三

皇子

皇子ノ直ニ皇位ヲ繼承セシ事

皇子ノ皇后ノ勸進ニ從テ皇位ヲ繼承セシ事

皇子ノ皇后ト群臣トノ勸進ニ從テ皇位ヲ繼承セシ事

シ事

皇子ノ羣臣ノ勸進ニ從テ皇位ヲ繼承セシ事

皇子ノ皇太子ヲ超テ皇位ヲ繼承セシ事

皇子ノ立親王ノ儀ナクシテ直ニ皇太子ト為テ皇

位ヲ繼承セシ事

皇子ノ立親王ノ儀ナクシテ直ニ皇位ヲ繼承セシ

事



皇子ノ皇位ヲ繼承スルヲ辞シ而シテ後非常ノ事  
故有テ皇位ヲ繼承セシ事  
皇子ノ皇太子ノ暴虐ナルヲ以テ撃テ之ヲ滅シ己  
コレニ代リ皇位ヲ繼承セシ事

皇女

皇女ノ皇太子ト為リテ皇位ヲ繼承セシ事  
皇女ノ直ニ皇位ヲ繼承セシ事  
皇女ノ皇后ニ立チ而シテ後皇位ヲ繼承セシ事  
皇女ノ皇后皇位ヲ繼承シテ天皇ト稱セス仍皇后  
ト稱セシ事  
皇女ノ皇位ヲ繼承シテ仍天皇ト稱セサリシ事  
皇女ノ萬機ヲ攝行シ而シテ後皇位ヲ繼承セシ事  
皇女ノ羣臣ノ勸進ニ從テ皇位ヲ繼承セシ事

皇女ノ皇后ノ群臣ノ勸進ニ從テ皇位ヲ繼承セシ  
事

卷四

諸王

諸王ノ直ニ皇位ヲ繼承セシ事  
諸王ノ皇太子ト為リ而シテ後皇位ヲ繼承セシ事  
諸王ノ皇子ト為リ而シテ後皇位ヲ繼承セシ事  
諸王ノ降テ臣下ト為リ復昇テ親王ト為リ尋テ皇  
太子ト為リテ皇位ヲ繼承セシ事  
諸王ノ羣臣ノ勸進ニ從テ皇位ヲ繼承セシ事

女王

女王ノ直ニ皇位ヲ繼承セシ事  
女王ノ皇后ニ立チ而シテ後皇位ヲ繼承セシ事

幼主

皇太子幼クシテ皇位ヲ繼承セシ事  
 皇太弟幼クシテ皇位ヲ繼承セシ事  
 日嗣皇子幼クシテ皇位ヲ繼承セシ事  
 皇子幼クシテ皇位ヲ繼承セシ事  
 皇女幼クシテ皇位ヲ繼承セシ事  
 諸王幼クシテ皇位ヲ繼承セシ事

卷五

定策

群臣先帝ノ遺詔ニ從テ皇位ノ繼承ヲ議定セシ事  
 群臣皇親ノ中近族ヲ擇ヒ以テ皇位ノ繼承ヲ議定セシ事  
 群臣皇親ノ中年長ヲ擇ヒ以テ皇位ノ繼承ヲ議定セシ事

セシ事

群臣皇親ノ中徳ノ高キ者ヲ擇ヒ以テ皇位ノ繼承ヲ議定セシ事  
 群臣卜筮ニ從テ皇位ノ繼承ヲ議定セシ事  
 權臣議ヲ建テ群臣コレニ從ヒシ事

卷六

定策異例

後堀河天皇ヨリ以來四條天皇后嵯峨天皇后深草天皇龜山天皇后宇多天皇伏見天皇後伏見天皇後二條天皇花園天皇后醍醐天皇ニ至テノ十一代ハ北條氏ノ奏スル所ニ從テ皇位ヲ繼承セシ事

定策非例

權臣兩皇統迭立ノ議ヲ建テ定メテ治世ノ期限ヲ

十年トセシ事

皇位繼承異例

落飾ノ後初服ニ還リテ皇位ヲ繼承セシ事

落飾シテ後再ヒ皇位ヲ繼承セシ事

皇位繼承非例

神器無クシテ皇位ヲ繼承セシ事

皇位繼承餘論

皇位ハ子孫相承ルヲ以テ常規トスヘキ議アリシ

事

重祚ノ事

重祚ニ似テ重祚ナラザル事

上世ハ皇弟ト雖ヘトモ勲績アレハ皇兄コレニ皇

位ヲ讓ル皇弟乃チ皇兄ノ讓ニ從テ皇位ヲ繼承セ

シ事

皇太子及皇子別髪シテ皇位ノ繼承ヲ辞セシ事

天皇皇族ニ命シテ皇位ヲ繼承セシメント欲シ豫

テ後事ヲ付嘱セシ事

皇子ノ皇后ヲシテ皇位ヲ繼承セシメントセシ事

卷七

踐祚

上古ハ踐祚即位別無カリシ事

踐祚ノ嚴飾ヲ衆人ニ縱觀セシメシ事

踐祚異例

應神天皇母后ノ胎中ニ在テ皇位ヲ繼承セシ事

清寧天皇ノ踐祚ノ事

即位

空位

飯豐青尊朝ニ臨ミ政ヲ兼リシ間ハ空位ナル事  
空位一覽表

卷八

讓位

天皇疾病ニ由テ皇位ヲ讓リシ事  
天皇衰老ヲ以テ皇位ヲ讓リシ事  
天皇皇太子ノ長スルヲ俟テ皇位ヲ讓リシ事  
天皇災異ヲ以テ皇位ヲ讓リシ事  
天皇萬機ニ堪ヘスシテ皇位ヲ讓リシ事

卷九

讓位異例

天皇崩スト雖ヘトモ仍御存在ノ儀ヲ以テ皇位ヲ

讓シ事

天皇時變ニ由テ皇位ヲ讓リシ事  
天皇事ヲ舉クルニ便ナラントシテ皇位ヲ讓リシ  
事

天皇上皇ノ意ニ從テ皇位ヲ讓シ事

讓位非例

天皇權臣ノ奏スルニ從テ皇位ヲ讓シ事

遜位

廢位

廢位異例

卷十

親族圖

繼承類例

皇統畧系圖

女主ノ皇位ヲ繼承セシ大意

附録

三種神器篇

神器起原

神器傳來ノ事

寶鏡災

天德四年ノ災ノ事

寛弘二年ノ災ノ事

長久元年ノ災ノ事

神宮御正體御動座ノ事

熱田神社御正體御動座ノ事

皇位繼承篇卷之一

議官 福羽美靜 檢閲

少書記官 横山由清

編纂

大書記生 黒川真頼

皇位

皇位ハ即ミクラキ、ミハ美稱クラキハ座居ナリ

天皇高御座ニ坐シテ天下ヲ照臨ス、故ニ天皇天

下ヲ照臨スルヲ天津日嗣高御座ノ業トイフ

神武天皇紀條首 己未年云 三月辛酉朔丁卯下令曰自我東

征於茲六年矣、頼以皇天之威、凶徒就戮、雖邊土未清、餘妖尚梗、

而中洲之地無復風塵、誠宜恢廓皇都、規摹大壯、而今運屬此地、

蒙民心朴素、巢棲穴住、習俗惟常、夫大人立制、義必隨時、苟有利

民何妨聖造、且當披拂山林、經營宮室、而恭臨寶位○寶位ハ即



皇位繼承篇 卷之一

以鎮元元、上則答乾靈授國之德、下則弘皇孫養正之心、然後兼六合以開都掩八紘、而為宇不亦可乎、觀夫畝傍山、宇爾繁夜、摩東南樞原地者、蓋國之壤、區乎可治之、是月即命有司、經始帝宅、文武天皇紀、首十一年、〇持統天皇八月甲子朔、受禪即位、文武天皇紀、首十一年、〇持統天皇八月甲子朔、受禪即位、位天皇、即庚辰、詔曰、云、天皇御子之阿禮坐、牟彌繼繼、爾大八島國將、知次、止、天都神、乃御子、隨、爾天坐神、之依、之奉、隨、此天津日嗣、高御座之業、止、現御神、止、大八島國所知、倭根子、天皇命、授賜、比、負、賜、布、貴、支、厚、支、大命、乎、受、賜、利、云、云、

元明天皇紀、慶雲四年秋七月壬子、天子天皇即位、於大極殿、詔曰、云、此乃天豆日嗣之位者、云、云、〇天津日嗣、高御座之業、トイヒ、又ハ天豆日嗣之位トモイヒ、文ニレ、天コト、是、等、ノ、文ニ、據、テ、知ルベシ、又稱德天皇紀ノ文ニ、天コト、是、等、トモイヒ、ヘリ、

皇統

皇位ノ繼承ハ、天照大神及高皇產靈尊ノ詔命ニ

從ヒ、天照大神ノ子孫コレヲ相承クルヲ以テ、萬世不易ノ法トス、故ニ古語ニ云ク、天神國ヲ以テ、天皇ニ授クト、又云ク、天皇ヲ稱シテ、葦原中國ノ主ト為スト、又皇統ノ長久ナルヲ示シテ、寶祚無窮トイヒ、皇統ノ一系ナルヲ示シテ、天之日嗣、必立皇緒トイヘリ、コレ臣トシテ、覬覦スベカラザルヲイフナリ

天神授國ノ事

文武天皇紀、首、高天原廣野、姫、天皇、〇持統天、十一年、云、八月甲子朔、受禪即位、庚辰、詔曰、現御神、止、大八洲國所知、天皇大命、止、良、麻、詔、大命、乎、集、侍、皇子、等、王、臣、百、官、人、等、天、下、公、民、諸、聞、食、止、詔、高、天、原、雨、事、始、而、遠、天、皇、祖、御、世、中、今、至、麻、氏、天、皇、御、子、之、阿、禮、坐、牟、彌、繼、繼、爾、大、八、島、國、將、知、次、止、天、都、神、乃、御、子、隨、母、天

坐神之依之奉之隨此天津日嗣高御座之業止現御神止大八  
島國所知倭根子天皇命授賜比負賜布貴支厚支大命乎受賜  
利恐坐此乃食國天下乎日本國調賜比平賜比天下乃公  
民乎惠賜比撫賜奈母隨神所思行止久詔天皇大命乎諸聞食  
止詔云

葦原中國ノ主ノ事

神代紀下卷 皇祖高皇產靈尊云 遂欲立皇孫天津彦彦火  
瓊瓊杵尊以為葦原中國之主云  
古事記上卷 天照大神神之命以豐葦原之千秋長五百秋之  
水穗國者我御子正勝吾勝勝速日天忍穗耳命之所知國言因  
賜而天降也

寶祚無窮之事

神代紀下卷 一書曰天照大神勅天稚彦曰豐葦原中國是吾

兒尊天忍穗耳可王之地也然慮有殘賊強暴橫惡之神者故汝  
先往乎之云 既而天照大神以思兼神妹萬幡豐秋津姬命配  
正哉吾勝勝速日天忍穗耳尊為妃令降之於葦原中國云 時  
天照大神勅曰若然者方當降吾兒矣且將降間皇孫瓊瓊杵  
已生號曰天津彦彦火瓊瓊杵尊時有奏曰欲以此皇孫代降故  
天照大神乃賜天津彦彦火瓊瓊杵尊八坂瓊曲玉及八咫鏡草  
薙劍三種寶物云 因勅皇孫曰葦原千五百秋之瑞穗國是吾  
子孫可王之地也宜爾皇孫就而治焉行矣寶祚之隆當與天壤  
無窮者矣

天ノ日嗣ハ必皇緒ヲ立ツベキ事

稱德天皇紀 神護慶雲三年九月己丑云 大神宇佐八幡  
託宣曰我國家開闢以來君臣定矣以臣為君未之有也天之日  
嗣必立皇緒

桓武天皇紀 延曆十八年二月 云 乙未贈正三位行民部卿  
兼造宮大夫美作備前國造和氣清磨イハタケノキミ薨本姓磐梨イハタケ別公ワケキミ右京人  
也後改姓藤原和氣真人清磨為久高直匪躬之節與姊廣虫共  
事高野天皇並蒙愛信任右兵衛少尉神護初授從五位下遷近  
衛將監特賜封五十戶姊廣虫及笄年許嫁從五位下葛木宿禰  
戶主ヘノミ既而天皇落飾隨出家為御弟子法名法均授進守大夫尼  
位委以腹心賜四位封并位祿位田寶字八年大保惠美忍勝叛  
逆伏誅連及當斬者三百七十五人法均切諫天皇納之減死刑  
以處流徒亂止之後民苦飢疫棄子草間遣人收養得八十三兒  
同名養子賜葛木首オノ此時僧道鏡得幸於天皇出入警蹕一擬乘  
輿號曰法王大宰主神習シラキ宜阿蘇磨アソ媚事道鏡矯八幡神教言令  
道鏡即帝位天下太平道鏡聞之情喜自負天皇召清磨於牀下  
曰夢有久來稱八幡神使云為奏事請尼法均朕答曰法均軟弱

難堪遠路其代遣清磨汝宜早參聽神之教道鏡復喚清磨募以  
大臣之位先是路真人ミチノヒト豐永為道鏡之師語清磨云道鏡若登天  
位吾以何面目吾與二三子共為今日之伯夷耳清磨深然其言  
常懷致命之志往詣神宮神託宣云云清磨祈曰今大神所教是  
國家之大事也託宜難信願示神異神即忽然現形其長三尺許  
色如滿月清磨消魂失度不能仰見於是神託宣我國家君臣分  
定而道鏡悖逆無道輒望神器是以神靈震怒不聽其祈汝歸如  
吾言奏之天之日嗣必續皇緒汝勿懼道鏡之怨吾必相濟清磨  
歸來奏如神教天皇不忍誅為因幡負外介尋改姓名為別部ワケベ穉  
磨流于大隅國尼法均還俗為別部狹虫ササヒ流于備後國道鏡又追  
將殺清磨於道雷兩晦暝未即行俄而勅使來僅得免于時參議  
右大辨藤原朝臣百川愍其忠烈便割備後國封鄉廿戶送充於  
配處寶龜元年聖帝踐祚有勅入京賜姓和氣朝臣復本位名姊



廣虫又掌吐納叙從四位下任典藏累至正四位下

御代數ハ神武天皇ヨリ數ヘシ事

榮花物語

月の宴

世はトヤリトク後このくまのみつど六十

よ代皇宇多天

フイフ天 小あはせ給ふけむと此次第のきつくと

きよあはせ

大鏡卷一 六の世をトヤリトク 此ちみうどハまが神の世七

代をオきたたまつりトク 神武天皇をオどめ奉りトク 崇徳

皇後一條天

フイフ まで六十八代もあはせ給ひまけ

水鏡上卷 まが神の代七代、そのうち伊勢太神宮の御世

より、うはのやふきあはせ給のみことまを五代、あはせ七

二代のことハ、ことまをあらをトヤリトク、嘉祥三年庚

おちくはるべし、神武天皇より中侍るべきあり、そはみ

うどくらあはせ給ひトク、辛酉のトヤリトク、嘉祥三年庚

年のトヤリトク、千五百廿二年もやあり、あらん、そのるどみの

ど五十四代どあはせトク、あはせけむ

扶桑略記卷二

應神天皇十六代

云 仁徳天皇十七代

神皇正統記上卷 人皇第一代神日本磐余彦天皇と申を後

小神武と名づけ奉る

代數ト世數トノ差別ノ事

歴世ノ天皇高御座ノ業ヲ相繼グ、コレヲ代トイ

フ父子相繼グコレヲ世トイフ、次下ニ其ノ圖ヲ

為リテ以テ捷覽ニ備フ

神皇正統記上卷 第十四代第十四仲哀天皇ハ日本武尊第

二の子景行の御孫あり、御母ハ兩道入姫垂仁天皇の女あり、

大祖神武より第十二代景行までの代はトヤリトク、繼體ト給ふ

日本武尊世をオヤクト給ひトク、成務天皇是を繼給ふ

此天皇 ○仲哀天 皇ヲイフ を太子としてめづりまゝに代と世  
とかわるるをどめあり、是よりハ世を本とまゝに奉るべき  
あり、代と世との常の義差別あり、ちうせどもおろよその紹  
運とまことの継體とを分別せんため、書分なり、但字  
書も其の註に父死て子立を世と云とあり

第一代 神武天皇

第二代 綏靖天皇

第三代 安寧天皇

第四代 懿德天皇

第五代 孝昭天皇

第六代 孝安天皇

第七代 孝靈天皇

第八代 孝元天皇

第九代 開化天皇

第十代 崇神天皇

第十代 垂仁天皇

第十二代 景行天皇

第十三代 成務天皇

第十四代 仲哀天皇

日本武尊 景行天皇之子 成務天皇之兄

第十五代 應神天皇

第十六代 仁德天皇

第十七代 履仲天皇

第十八代 反正天皇

仁德天皇之子 反正天皇之兄

仁德天皇之子 履仲天皇之弟

第十九代 允恭天皇

第二十代 安康天皇

仁德天皇之子 反正天皇之弟

允恭天皇之子 雄略天皇之兄

第二十代 雄略天皇

第二十二代 清寧天皇

允恭天皇之子 安康天皇之弟

第十八代 市邊押磐皇子

第廿三代 顯宗天皇 履仲天皇之孫  
第十九世 仁賢天皇之弟

第廿四代 仁賢天皇 履仲天皇之孫  
第十九世 顯宗天皇之兄

第廿五代 武烈天皇

第廿六代 繼體天皇 應神天皇五世之孫  
第二十世

第十六世 稚瀍毛三派皇子 第十七世 大富杼王

第十八世 宇非王 第十九世 彥宇斯王

第廿七代 安閑天皇 繼體天皇之子  
第廿一世 宣化天皇之兄

第廿八代 宣化天皇 繼體天皇之子  
第廿一世 安閑天皇之弟

第廿九代 欽明天皇 繼體天皇之嫡子  
第廿一世 宣化天皇之弟

第三十代 敏達天皇 欽明天皇之子  
第廿二世 用明天皇之兄

第廿一代 用明天皇 欽明天皇之子  
第廿二世 敏達天皇之弟

第廿二代 崇峻天皇 欽明天皇之子  
第廿二世 用明天皇之弟

第廿三代 推古天皇 欽明天皇之子  
第廿二世 崇峻天皇之弟

第廿四代 舒明天皇 敏達天皇之孫  
第廿四世 皇極天皇之伯父

第廿五代 皇極天皇 敏達天皇之曾孫  
第廿五世 孝德天皇之弟

第廿六代 孝德天皇 敏達天皇之曾孫  
第廿五世 皇極天皇之弟

第廿七代 齊明天皇 皇極天皇重祚  
第廿五世

第廿八代 天智天皇 舒明天皇之子  
第廿五世 天武天皇之兄

第廿九代 弘文天皇 天智天皇之子  
第廿六世 持統天皇之弟

第卅代 天武天皇 舒明天皇之子  
第廿五世 天智天皇之弟

第卅一代 持統天皇 天智天皇之女  
第廿六世 弘文天皇之弟

第卅二代 文武天皇 天武天皇之孫  
第廿七世 元正天皇之兄

第廿六世 高宮天皇 草壁子

第卅三 元明天皇 天智天皇之女  
第廿六世 持統天皇之妹

第卅四 元正天皇 天武天皇之孫  
第廿七世 文武天皇之妹

第廿八代 聖武天皇 文武天皇之子

第廿九代 孝謙天皇 文武天皇之孫

第卅代 淳仁天皇 天武天皇之孫

第卅一代 田原天皇 施基皇子

第卅二代 光仁天皇 天智天皇之孫

第卅三代 平城天皇 桓武天皇之子

第卅四代 淳和天皇 桓武天皇之子

第卅五代 文德天皇 仁明天皇之子

第卅六代 陽成天皇 光孝天皇之兄

第卅七代 孝謙天皇 文武天皇之孫

第卅八代 稱徳天皇 孝謙天皇重祚

第卅九代 桓武天皇 天智天皇之孫

第卅十代 嵯峨天皇 桓武天皇之子

第卅十一代 仁明天皇 桓武天皇之子

第卅十二代 清和天皇 仁明天皇之子

第卅十三代 光孝天皇 仁明天皇之子

第卅四代 宇多天皇 光孝天皇之兄

第卅十四代 醍醐天皇 仁明天皇之子

第卅五代 朱雀天皇 醍醐天皇之子

第卅十五代 村上天皇 醍醐天皇之子

第卅六代 冷泉天皇 村上天皇之子

第卅十六代 圓融天皇 村上天皇之子

第卅七代 花山天皇 冷泉天皇之子

第卅十七代 一條天皇 冷泉天皇之子

第卅八代 三條天皇 花山天皇之弟

第卅十八代 後一條天皇 一條天皇之子

第卅九代 後朱雀天皇 一條天皇之子

第卅十九代 後冷泉天皇 後朱雀天皇之子

第七十一代 後朱雀天皇之子  
第七十二代 後三條天皇 後冷泉天皇之弟

第七十一代 白河天皇

第七十三代 堀河天皇  
第四十世

第七十四代 鳥羽天皇  
第四十二世

第七十五代 崇德天皇 鳥羽天皇之子  
第四十一世 後白河天皇之兄

第七十六代 近衛天皇 鳥羽天皇之子  
第四十三世 後白河天皇之弟

第七十七代 後白河天皇 鳥羽天皇之子  
第四十二世 近衛天皇之兄

第七十八代 二條天皇 後白河天皇之子  
第四十四世 高倉天皇之兄

第七十九代 六條天皇  
第四十四世

第八十代 高倉天皇 後白河天皇之子  
第四十五世 二條天皇之弟

第八十一代 安德天皇 高倉天皇之子  
第四十五世 後鳥羽天皇之兄

第八十二代 後鳥羽天皇 高倉天皇之子  
第四十六世 安德天皇之弟

第八十三代 土御門天皇 後鳥羽天皇之子  
第四十五世 順德天皇之兄

第八十四代 順德天皇 後鳥羽天皇之子  
第四十七世 土御門天皇之弟

第四十四世 後高倉院 守貞親王

第八十五代 仲恭天皇  
第四十六世

第八十六代 後堀河天皇 高倉天皇之孫  
第四十八世

第八十七代 四條天皇  
第四十六世

第八十八代 後嵯峨天皇 土御門天皇之子  
第四十九世

第八十九代 後深草天皇 後嵯峨天皇之子  
第四十七世 龜山天皇之兄

第九十代 龜山天皇 後嵯峨天皇之子  
第四十九世 後深草天皇之弟

第九十一代 後宇多天皇  
第四十八世

第九十二代 伏見天皇  
第四十九世

第九十三代 後伏見天皇 伏見天皇之子  
花園天皇之兄

第九十四代 後二條天皇 後宇多天皇之子  
後醍醐天皇之兄

第九十六代 花園天皇 第百零九世

第九十六代 後醍醐天皇 後宇多天皇之子  
後二條天皇之弟

第九十七代 後村上天皇 第五十世

第九十八代 後龜山天皇 第五十一世

第五世 光嚴天皇 後伏見天皇之子  
光明天皇之兄

第五十世 光明天皇 後伏見天皇之子  
光嚴天皇之弟

第五世 崇光天皇 光嚴天皇之子  
後光嚴天皇之兄

第五十一世 後光嚴天皇 光嚴天皇之子  
崇光天皇之弟

第五十二世 後圓融天皇

第九十九代 後小松天皇 第五十三世

第一百代 稱光天皇

第一百代 後花園天皇 崇光天皇之曾孫  
第五十四世

第五十二世 榮仁親王

第五十三世 後崇光院 親王  
第五十五世

第一百二代 後土御門天皇 第五十五世

第一百三代 後柏原天皇 第五十六世

第一百四代 後奈良天皇 第五十七世

第一百五代 正親町天皇 第五十八世

第五十九世 陽光院 親王  
仁

第一百六代 後陽成天皇 正親町天皇之孫  
第六十世

第一百七代 後水尾天皇 第六十一世

第一百八代 明正天皇 後水尾天皇之子  
後光明天皇之弟

第一百九代 後光明天皇 後水尾天皇之子  
明正天皇之弟

第一百十代 後西院天皇 後水尾天皇之子  
後光明天皇之弟

第一百十代 靈元天皇 後水尾天皇之子  
後西院天皇之弟

第百十代 東山天皇

第百十代 中御門天皇 東山天皇之子

第百九代 櫻町天皇

第百九代 桃園天皇 櫻町天皇之子

第百八代 後櫻町天皇 櫻町天皇之子 桃園天皇之弟

第百八代 後桃園天皇

第百七代 直仁親王

第百七代 典仁親王

第百六代 光格天皇

第百六代 仁孝天皇

第百五代 孝明天皇

第百五代 今上

皇位ノ繼承ニ正位ト不正位トノ別アル事  
皇位ノ繼承ニ正位ト不正位トノ別アリ、其ノ正

位トイフハ何ゾ、天皇崩ズ皇太子繼テ踐祚ス、是  
ヲ正ト爲ス、天皇或ハ事故アリテ皇位ヲ皇太子  
ニ讓ルモ亦以テ正ト爲ス、其ノ或ハ皇太弟或ハ  
皇子ノ此ノ如クニシテ踐祚スルモ亦正ナリ、天  
皇或ハ儲嗣無キヲ以テ皇族ニ傳フルガ如キハ、  
已ムコトヲ得ザルニ出ヅト雖ヘドモ、然レドモ  
皇位ヲ繼承スルニ於テハ亦正ナリ或ハ天皇崩  
ジテ嗣無シ、時ニ皇子諸王ノ中高徳ノ者アリ、其  
ノ者或ハ皇后ノ勸進ニ從ヒ、或ハ群臣ノ勸進ニ  
從ヒテ皇位ヲ繼承スルモ亦正ナリ、或ハ天皇崩  
ズ時ニ太上天皇仍在スト雖ヘドモ意未、誰ト爲  
スニ決セズ、群臣乃、皇子諸王ノ中ニ擇ビ以テ勸  
進ス、皇子因テ踐祚シ諸王因テ踐祚スルガ如キ

モ亦不正ト為サズ、其ノ不正ト為スハ何ゾヤ天  
皇在テ又別ニ踐祚スル者アリ、是ヲ不正ト為ス、  
假令太上天皇ノ詔アリテ以テ皇位ヲ繼承スト  
イフト雖ヘドモ、然レドモコレヲ正位トハ為ス  
ベカラザルナリ

正位

神皇正統記中卷 第三十四代推古天皇ハ云 癸丑の年即  
位大倭の小墾田ハナダの宮おまゝもを、むらゝ神功皇后六十餘年  
天下を治め給ひしあども、攝政と申て天皇とハ號しなてま  
つらざるもや、此御門皇ヲ推古天ハ正位も即給ひけるもこと  
不正位

神皇正統記下卷 六月四日 年〇元弘三 東寺もいつせ給ふ後〇  
醍醐天皇ノ隱岐ヨ 都もあも人々もあもりあつまりしうべ

威儀をとのへ本の宮お還幸し給ふ、いつの賞罰のさど  
め有しよ、兩院園後伏見天皇花 新帝皇ヲ光嚴天をばあどめ申  
給ひし都もをせまゝり、さどと新帝ハ偽主の儀もて  
正位スルハ正位ニ非ルヲイフ稱 みのちみらむ、改元し  
正慶といひしをも本のぶとく元弘と號せらる

皇位繼承一覽表

天皇皇位ヲ繼承スルニ其ノ跡一ナラズ、故ニ部  
ヲ分ツコト數種以テコレヲ次下ニ擧グ、而シテ  
猶其ノ見ルニ易カラシコトヲ要シ更ニ表ヲ為  
ル、第一層ニハ正位不正位ノ別ヲ標シ、第二層ニ  
ハ天皇ノ御名ヲ掲ゲ、第三層ニハ其ノ承クル所  
ヲ記シ、第四層ニハ繼承ノ年月日ヲ記シ、第五層  
ニハ御履歷ヲ記ス 諸王或ハ天皇ノ養子ト為ナリ  
或ハ猶子ト為ルトキハ則チ天



皇位繼承篇

卷之一

皇ノ子ナレバ當ニ皇子ト稱スベシ而シテ此ノ書猶諸王ト稱スルハ其ノ昭穆ヲ明瞭ナラシメ

正統同下

第二層	第三層	第四層	第五層
神武天皇	御父鸕鷀草薙不合尊崩年不詳	辛酉歲正月一日	皇太子
綏靖天皇	御父神武天皇丙子歲三月十一日崩	庚辰歲正月八日	皇太子
安寧天皇	御父綏靖天皇壬子歲五月十日崩	壬子歲七月三日	皇太子
懿德天皇	御父安寧天皇庚寅歲十二月六日崩	辛卯歲二月四日	皇太子
孝昭天皇	御父懿德天皇甲子歲九月八日崩	丙寅歲正月九日	皇太子
孝安天皇	御父孝昭天皇戊子歲八月五日崩	己丑歲正月七日	皇太子
孝靈天皇	御父孝安天皇庚午歲正月九日崩	辛未歲正月十日	皇太子
孝元天皇	御父孝靈天皇丙戌歲二月八日崩	丁亥歲正月十日	皇太子
開化天皇	御父孝元天皇癸未歲九月二日崩	同年十一月十日	皇太子
崇神天皇	御父開化天皇癸未歲四月九日崩	甲申歲正月十三日	皇太子
垂仁天皇	御父崇神天皇辛卯歲十二月五日崩	壬辰歲正月二日	皇太子
景行天皇	御父垂仁天皇庚午歲七月十一日崩	辛未歲七月十一日	皇太子
成務天皇	御父景行天皇庚午歲十一月七日崩	辛未歲正月五日	皇太子
仲哀天皇	御叔父成務天皇庚午歲六月十一日崩	壬申歲正月十一日	皇太子
應神天皇	御父仲哀天皇庚辰歲二月六日崩	同年同月同日	日嗣皇太子
仁德天皇	御父應神天皇庚午歲二月十五日崩	癸酉歲正月三日	皇太子
履仲天皇	御父仁德天皇己亥歲正月十六日崩	庚子歲二月一日	皇太子
反正天皇	御兄履仲天皇乙巳歲三月十五日崩	丙午歲正月二日	皇太子
允恭天皇	御兄反正天皇庚戌歲正月廿三日崩	壬子歲十二月十日	皇太子
安康天皇	御父允恭天皇癸巳歲正月十四日崩	同年十二月十日	皇太子
雄略天皇	御兄安康天皇丙申歲八月九日崩	同年十一月十日	皇太子
清寧天皇	御父雄略天皇己未歲八月七日崩	庚申歲正月十五日	皇太子
顯宗天皇	御再從弟清寧天皇甲子歲正月十六日崩	乙丑歲正月一日	皇太子

皇位繼承篇

卷之一

諸王

仁賢天皇	御弟頭宗天皇丁卯歲四月廿五日崩	戊辰歲正月五日	皇太子				諸王
武烈天皇	御父仁賢天皇戊寅歲八月八日崩	同年十二月口	皇太子			皇子	
繼體天皇	御四從兄武烈天皇丙戌歲十月二日崩	丁亥歲二月四日					諸王
安閑天皇	御父繼體天皇辛亥歲二月七日讓位	同年同月同日	皇太子			皇子	
宣化天皇	御兄安閑天皇乙卯歲十二月十七日崩	同年十二月口				皇子	
欽明天皇	御兄宣化天皇己未歲二月十日崩	同年十二月五日				皇子	
敏達天皇	御父欽明天皇辛卯歲四月十日崩	壬辰歲四月三日	皇太子			皇子	
用明天皇	御兄敏達天皇乙巳歲八月十日崩	同年九月五日	日嗣皇			皇子	
崇峻天皇	御兄用明天皇丁未歲四月九日崩	同年八月二日				皇子	
推古天皇	御弟崇峻天皇壬子歲十一月三日崩	同年十二月八日	敏達天皇 皇后			皇女	
舒明天皇	御從祖々姑推古天皇戊子歲三月七日崩	己丑歲正月四日				皇子	諸王
皇極天皇	御伯父舒明天皇辛丑歲十月九日崩	壬寅歲正月十日	舒明天皇 皇后			皇子	王女
孝德天皇	御姊皇極天皇乙巳歲六月十四日讓位	同年同月同日				皇子	諸王

齊明天皇	御弟孝德天皇白雉五年十月十日崩	乙卯歲正月三日 重祚	皇極天皇 重祚				
天智天皇	御母齊明天皇辛酉歲七月廿四日崩	同年同月口	皇太子			皇子	
弘文天皇	御父天智天皇辛未歲十二月三日崩	同年同月五日	皇太子			皇子	
天武天皇	御姪弘文天皇壬申歲七月廿三日崩	同年同月同日	天武天皇 皇后			皇女	
持統天皇	御叔父天武天皇朱鳥元年九月九日崩	同年同月同日	皇太子			皇女	皇嫡孫 諸王
文武天皇	御祖母持統天皇丁酉歲八月一日讓位	同年同月同日					
元明天皇	御從姪文武天皇慶雲四年六月十五日崩	同年同月同日				皇女	
元正天皇	御從姪元明天皇靈龜元年九月三日讓位	同年同月同日				皇女	
聖武天皇	御叔母元正天皇神龜元年二月四日讓位	同年同月同日	皇太子		內親王	皇子	
孝謙天皇	御父聖武天皇天平廿一年七月二日讓位	同年同月同日	皇太子		內親王	皇女	
淳仁天皇	御從姪孫孝謙天皇天平寶字二年八月一日讓位	同年同月同日	皇太子				諸王
稱德天皇	御族叔祖父淳仁天皇天平寶字八年十月九日廢位	同年同月同日 重祚	孝謙天皇 重祚				
光仁天皇	御再從姪孫稱德天皇神護景雲四年八月四日崩	同年同月同日	皇太子				諸王

桓武天皇	御父光仁天皇天應元年四月三日讓位	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
平城天皇	御父桓武天皇延曆廿五年三月十七日崩	同年同月十八日	皇太子	親王	皇子
嵯峨天皇	御兄平城天皇大同四年四月一日讓位	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
淳和天皇	御兄嵯峨天皇弘仁十四年四月十七日讓位	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
仁明天皇	御叔父淳和天皇天長十年二月廿八日讓位	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
文德天皇	御父仁明天皇嘉祥三年三月廿一日崩	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
清和天皇	御父文德天皇天安二年八月廿七日崩	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
陽成天皇	御父清和天皇貞觀十八年十一月廿九日讓位	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
光孝天皇	御姪孫陽成天皇元慶八年二月四日遜位	同年同月同日	親王	皇子	
宇多天皇	御父光孝天皇仁和三年八月廿六日崩	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
醍醐天皇	御父宇多天皇寬平九年七月三日讓位	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
朱雀天皇	御父醍醐天皇延長八年九月廿二日讓位	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
村上天皇	御兄朱雀天皇天慶九年四月廿日讓位	同年同月同日	皇太子	親王	皇子

冷泉天皇	御父村上天皇康保四年五月廿五日崩	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
圓融天皇	御兄冷泉天皇安和二年八月十三日讓位	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
花山天皇	御叔父圓融天皇永觀二年八月廿七日讓位	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
一條天皇	御從兄花山天皇寬和二年六月廿三日遜位	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
三條天皇	御從弟一條天皇寬弘八年六月十三日讓位	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
後一條天皇	御從伯父三條天皇長和五年正月二十九日讓位	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
後朱雀天皇	御兄後一條天皇長元九年四月十七日讓位	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
後冷泉天皇	御父後朱雀天皇寬德二年正月十六日讓位	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
後三條天皇	御兄後冷泉天皇治曆四年四月十九日崩	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
白河天皇	御父後三條天皇延久四年十二月八日讓位	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
堀河天皇	御父白河天皇應德三年十一月廿六日讓位	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
鳥羽天皇	御父堀河天皇嘉祿二年七月十九日崩	同年同月同日	皇太子	親王	皇子
崇徳天皇	御父鳥羽天皇保安四年正月廿八日讓位	同年同月同日	皇太子	親王	皇子

古

近衛天皇	後白河天皇	二條天皇	六條天皇	高倉天皇	安徳天皇	後鳥羽天皇	土御門天皇	順徳天皇	仲恭天皇	後堀河天皇	四條天皇	後嵯峨天皇
御兄崇徳天皇永治元年十二月七日讓位	御弟近衛天皇久壽二年七月廿三日崩	御父後白河天皇保元三年八月十一日讓位	御父二條天皇永萬元年六月廿五日讓位	御姪六條天皇仁安三年二月十九日讓位	御父高倉天皇治承四年二月廿一日讓位	御祖父後白河天皇ノ詔ニ依テ壽永二年八月廿日踐祚	御父後鳥羽天皇建久九年正月十一日讓位	御兄土御門天皇承元四年十一月廿五日讓位	御父順徳天皇承久三年四月廿日讓位	御從姪仲恭天皇承久三年七月九日遷位	御父後堀河天皇貞永元年十月四日讓位	御再從兄四條天皇仁治三年正月九日崩
同年同月同日	同年同月廿四日	同年同月同日	同年同月同日	同年同月同日	同年同月同日	壽永四年三月廿五日正位ニ歸ス	同年同月同日	同年同月同日	同年同月同日	同年同月同日	同年同月同日	同年同月廿日
皇太弟		皇太子	皇太子	皇太子	皇太子	神皇正統記 後鳥羽天皇 神皇正統記	皇太子	皇太弟	皇太子	皇太子	皇太子	皇太子
親王	親王	親王	親王	親王	親王		親王	親王	親王	親王	親王	親王
皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子
												諸王

初即位  
後正位  
正位下

不正位

後深草天皇	龜山天皇	後宇多天皇	伏見天皇	後伏見天皇	後二條天皇	花園天皇	後醍醐天皇	後村上天皇	後龜山天皇	光嚴天皇	光明天皇	崇光天皇
御父後嵯峨天皇寛元四年正月廿九日讓位	御兄後深草天皇正元元年十一月廿六日讓位	御父龜山天皇文永十一年正月廿六日讓位	御從弟後宇多天皇弘安十年十月廿一日讓位	御父伏見天皇永仁六年七月廿二日讓位	御再從兄後伏見天皇正安三年正月廿一日讓位	御再從弟後二條天皇徳治三年八月廿五日崩	御再從兄花園天皇文保二年二月廿六日讓位	御父後醍醐天皇延元四年八月十五日讓位	御父後村上天皇正平廿三年三月十一日崩	御叔父花園天皇ノ詔アリ	御兄光嚴天皇元弘三年十月七日遜位	御叔父光明天皇正平三年四月十日讓位
同年同月同日	同年同月同日	同年同月同日	同年同月同日	同年同月同日	同年同月同日	同年同月廿六日	同年同月同日	同年同月同日	同年四月廿九日	同年同月同日	延元元年三月十五日	同年同月同日
皇太子	皇太弟	皇太子	皇太子	皇太子	皇太子	皇太子	皇太子	皇太子	皇太子	皇太子	親王	皇太子
親王	親王	親王	親王	親王	親王	親王	親王	親王	親王	親王	親王	親王
皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子

皇位繼承篇 卷之一

後光嚴天皇	後圓融天皇	後小松天皇	稱光天皇	後花園天皇	後土御門天皇	後柏原天皇	後奈良天皇	正親町天皇	後陽成天皇	後水尾天皇	明正天皇
○御兄崇光天皇正平六年 應二年十一月七日遜位	○御父後光嚴天皇建德二年 應三年三月廿三日讓位 ○御父後圓融天皇弘和二年 應四年四月十一日讓位	後嵯峨天皇五世ノ孫後龜山 天皇明德三年閏十月五日讓 位 ○御父後小松天皇應永十九年 八月廿九日讓位	御父後小松天皇應永十九年 八月廿九日讓位	御族弟稱光天皇正長元年七 月廿日崩	御父後花園天皇寬正五年七 月十九日讓位	御父後土御門天皇明應九年 九月廿八日崩	御父後柏原天皇大永六年四 月七日崩	御父後奈良天皇弘治三年九 月五日崩	御祖父正親町天皇天正十四 年十一月七日讓位	御祖父後陽成天皇慶長十六 年三月廿七日讓位	御父後水尾天皇寬永六年十 一月八日讓位
正平七年 應三年八月十七日	同年同月同日	同年同月同日	同年同月同日	同年同月廿八日	同年同月同日	同年十月廿五日	同年同月廿九日	同年十月廿七日	同年同月同日	同年同月同日	同年同月同日
親王	親王	皇太子	親王	親王	親王	親王	親王	親王	親王	親王	親王
皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇女
			諸王						皇嫡孫 諸王		

初本  
後本  
正統  
同下

後光明天皇	後西院天皇	靈元天皇	東山天皇	中御門天皇	櫻町天皇	桃園天皇	後櫻町天皇	後桃園天皇	光格天皇	仁孝天皇	孝明天皇	今上
御姊明正天皇寬永廿年十月 三日讓位	御兄後光明天皇承應三年九 月廿日崩	御兄後西院天皇寬文三年正 月廿六日讓位	御父靈元天皇貞享四年三月 廿一日讓位	御父東山天皇寶永六年六月 廿一日讓位	御父中御門天皇享保廿年三 月廿一日讓位	御父櫻町天皇延享四年五月 二日讓位	御弟桃園天皇寶曆十二年七 月廿一日崩	御叔父後櫻町天皇明和七年 十一月廿四日讓位	御再從姪後桃園天皇安永八 年十一月九日崩	御父光格天皇文化十四年三 月廿二日讓位	御父仁孝天皇弘化三年二月 六日崩	御父孝明天皇慶應二年十二 月廿五日崩
同年同月同日	同年十一月廿八日	同年同月同日	同年同月同日	同年同月同日	同年同月同日	同年同月同日	同年同月廿七日	同年同月同日	同年同月廿五日	同年同月同日	同年同月十三日	慶應三年正月九日
皇太子	親王	親王	親王	親王	親王	親王	親王	親王	親王	親王	親王	親王
皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子	皇子
												諸王

皇位繼承篇卷一終

皇位繼承篇卷二

議官 福羽美静 檢閱

少書記官 横山由清

大書記生 黒川真頼

編纂

皇太子

皇太子ノ皇位ヲ繼承セシ事

皇太子ハ日嗣皇子ナリ、大御業ヲ嗣テ之ヲ知ル  
ノ稱ナリ、故ニ皇太子ノ皇位ヲ繼承スルヲ以テ  
恒典ト為ス、皇太弟モ亦日嗣皇子ナリ、唯文字ニ  
由テ以テ子ト弟トヲ分ツノミ、比都岐乃美古ト  
稱スルニ至テハ一ナリ、但皇太弟ノ事ハ  
上古日嗣皇子ト稱スルト中古以來日嗣皇子ト  
稱スルト異ナル所アリ、古事記ニ景行天皇ノ御



子ヲ録シテ云ク并八十王之中若帶日子命與倭  
建命亦五百木之入日子命此三王負太子之名自  
其餘七十七王者悉別賜國國之國造亦和氣及稻  
置縣主也トアリ是景行天皇ノ三皇子ヲ以テ日  
嗣皇子ト為スニテ中古以來ト異ナル所ナリ

神武天皇	綏靖天皇	安寧天皇	懿德天皇
孝昭天皇	孝安天皇	孝靈天皇	孝元天皇
開化天皇	崇神天皇	垂仁天皇	景行天皇
成務天皇	仲哀天皇	應神天皇	履仲天皇
反正天皇	清寧天皇	仁賢天皇	武烈天皇
安閑天皇	敏達天皇	天智天皇	弘文天皇
文武天皇	聖武天皇	孝謙天皇	淳仁天皇
光仁天皇	桓武天皇	平城天皇	仁明天皇

文德天皇	清和天皇	陽成天皇	宇多天皇
醍醐天皇	朱雀天皇	冷泉天皇	花山天皇
一條天皇	三條天皇	後一條天皇	後冷泉天皇
白河天皇	堀河天皇	鳥羽天皇	崇德天皇
二條天皇	六條天皇	高倉天皇	安徳天皇
後鳥羽天皇	土御門天皇	仲恭天皇	四條天皇
後深草天皇	後宇多天皇	伏見天皇	後伏見天皇
後二條天皇	花園天皇	後醍醐天皇	後村上天皇
後龜山天皇	光嚴天皇	崇光天皇	後小松天皇
後水尾天皇	後光明天皇	東山天皇	中御門天皇
櫻町天皇	桃園天皇	後桃園天皇	仁孝天皇
孝明天皇			

○神武天皇

神武天皇紀首條 天皇云 年十五立為太子云 辛酉年春正

月庚辰朔天皇即帝位於橿原宮

○ 綏靖天皇

神武天皇紀 四十有二年春正月甲寅立皇子神濤名川耳尊

○ 綏靖天皇為皇太子

綏靖天皇紀 元年春正月巳卯神濤名川耳尊即天皇位

○ 安寧天皇

綏靖天皇紀 廿五年春正月戊子立磯城津彥玉手看尊○ 安寧天皇

皇ヲ為皇太子

安寧天皇紀首條 三十三年○ 綏靖天皇リ七月乙丑太子即天

皇位

○ 懿德天皇

安寧天皇紀 十一年春正月壬戌朔立大日本彥耜友尊○ 懿德天皇

皇ヲ為皇太子也

懿德天皇紀 元年春二月壬子皇太子即天皇位

○ 孝昭天皇

懿德天皇紀 二十二年春二月戊子立觀松彥香殖稻尊○ 孝昭天皇

皇ヲ為皇太子年十八

孝昭天皇紀 元年春正月甲子皇太子即天皇位

○ 孝安天皇

孝昭天皇紀 六十八年春正月庚子立日本足彥國押人尊○ 孝安天皇

安天皇為皇太子年二十

孝安天皇紀 元年春正月辛卯皇太子即天皇位

○ 孝靈天皇

孝安天皇紀 七十六年春正月癸酉立大日本根子彥太瓊尊

○ 孝靈天皇為皇太子年二十六



孝靈天皇紀 元年春正月癸卯太子即天皇位

○孝元天皇

孝靈天皇紀 三十六年春正月己亥朔立彥國牽尊○孝元天皇為皇太子

孝元天皇紀 元年春正月甲申太子即天皇位

○開化天皇

孝元天皇紀 二十二年春正月壬午立稚日根子彥大日尊○開化天皇為皇太子年十六

開化天皇紀首條 五十七年○孝元天皇十月壬午太子即天皇位

開化天皇紀 二十八年春正月丁酉立御間城入彥尊○崇神天皇為皇太子年十九

崇神天皇紀

○無仁天皇

崇神天皇紀 元年春正月甲午皇太子即天皇位

崇神天皇紀 四十八年四月丙寅立活目尊○無仁天皇為皇太子

無仁天皇紀 元年春正月戊寅皇太子即天皇位

○景行天皇

無仁天皇紀 三十七年春正月戊寅朔立大足彥尊○景行天皇為皇太子

景行天皇紀 元年秋七月己卯太子即天皇位

○成務天皇

景行天皇紀 五十一年秋八月壬子立稚足彥尊○成務天皇為皇太子

成務天皇紀 元年春正月戊子皇太子即位

成務天皇紀 元年春正月戊子皇太子即位

成務天皇紀 元年春正月戊子皇太子即位

成務天皇紀 元年春正月戊子皇太子即位

成務天皇紀 元年春正月戊子皇太子即位

成務天皇紀 元年春正月戊子皇太子即位

成務天皇紀 元年春正月戊子皇太子即位

成務天皇紀 元年春正月戊子皇太子即位

成務天皇紀 元年春正月戊子皇太子即位

成務天皇紀 元年春正月戊子皇太子即位

成務天皇紀 元年春正月戊子皇太子即位

成務天皇紀 元年春正月戊子皇太子即位

成務天皇紀 元年春正月戊子皇太子即位

○仲哀天皇

成務天皇紀 四十八年春三月庚辰朔立甥足仲彥尊○仲哀  
天皇フイ為皇太子

仲哀天皇紀 元年春正月庚子太子即天皇位

○應神天皇

神功皇后紀 攝政三年春正月戊子立譽田別皇子○應神  
天皇フイ為皇太子

為皇太子

應神天皇紀 元年春正月丁亥朔皇太子即位○應神  
天皇ハ

中ニ在テ巳ニ皇位ヲ繼承セリ故ニ日嗣皇子ノ神功皇后ノ攝政三年ニ承  
セシ事ノ條ニ載セタリ日本書紀ニ神功皇后ノ攝政三年ニ承  
皇太子ト為リ而シテ後皇位ヲ繼承スル事ノ如キハ所  
以アルコトナレバ日嗣皇子ノ皇位ヲ繼承セシル事ノ條ニ辨  
ノ文ニ從テ搜索ノ便トナスノ紀

○履仲天皇

仁德天皇紀 三十一年春正月丁卯立大兄○履仲  
天皇ハ去來穗別尊○履仲

皇太子

履仲天皇紀 元年春二月壬午朔皇太子即位於磐余稚櫻宮

○反正天皇

履仲天皇紀 二年春正月巳酉立瑞齒別皇子○反正  
天皇ハ為儲君

君

反正天皇紀 元年春正月戊寅儲君即天皇位

○清寧天皇

雄略天皇紀 二十二年春正月巳酉朔以白髮皇子○清寧  
天皇ハ為皇太子

為皇太子

清寧天皇紀 二十三年○雄略天皇ハ冬十月壬申○大伴  
屋大連率臣連等奉璽於皇太子

元年春正月壬子命有司設壇場於磐余○甕栗陟天皇位

○仁賢天皇

元年春正月壬子命有司設壇場於磐余○甕栗陟天皇位

皇位繼承篇 卷之二

清寧天皇紀

三年夏四月辛卯以億計王〇仁賢天為皇太子

仁賢天皇紀

元年春正月乙酉皇太子於石上廣高宮即天皇

位

〇武烈天皇

仁賢天皇紀

七年春正月己酉立小泊瀨稚鷦鷯尊〇武烈天

為皇太子

武烈天皇紀

首 十一年〇仁賢天皇ノ十二月云於是太子

命有司設壇場泊瀨列城陟天皇位

〇安閑天皇

繼體天皇紀

七年十二月戊子詔曰云懿哉麻呂古〇安閑

示朕心於八方盛哉勾大兄〇安閑天

光吾風於萬國云定

汝之力宜處春宮助朕施仁翼吾補闕

安閑天皇紀

首 二十五年〇繼體天皇ノ春二月丁未男大迹

天皇〇繼體天立大兄為天皇即日男大迹天皇崩

〇敏達天皇

欽明天皇紀

十五年春正月甲午立皇子淳中倉太珠敷尊〇敏

達天皇為皇太子

敏達天皇紀

元年夏四月甲戌皇太子即天皇位

〇天智天皇

舒明天皇紀

十三年冬十月丁酉天皇崩于百濟宮丙午殯於

宮北是謂百濟大殯是時東宮開別皇子〇天智天年十六而誅

之〇東宮トアルハ即日嗣皇子ヲイヘ

皇極天皇紀

四年六月庚戌讓位於輕皇子〇孝德天立中大

兄〇天智天為皇太子

天智天皇紀

首 七年〇齊明天皇七月丁巳崩〇齊明天皇ノ

皇太子素服稱制〇天智天皇ノ皇位



聖武天皇紀 天平十年春正月壬午立阿倍内親王〇孝謙天皇ヲイフ為皇太子

同書 天平感寶元年秋七月甲午皇太子受禪即位於大極殿  
〇淳仁天皇

孝謙天皇紀 天平寶字元年夏四月辛巳云迎大炊王仁〇淳仁立為皇太子

淳仁天皇紀 天平寶字二年八月庚子朔高野天皇〇孝謙天皇ヲイフ禪位於皇太子

〇光仁天皇  
稱德天皇紀 神護景雲四年八月癸巳云天皇崩于西宮寢殿春秋五十三、左大臣從一位藤原朝臣永

手右大臣正二位吉備朝臣真備云等定策禁中立諱白壁王

帝王編年記卷十二 稱德天皇云皇太子白壁天智天皇孫

施基皇子男元大納言景雲四年八月立年六十二、同日踐祚

水鏡上卷 光仁天皇云云神護景雲四年八月四日百川

やがまつつゝのさをもよほし、白壁王を迎へ奉りし事

帝と定めありき、は帝の位よつきたまふ事なりと

道鏡を中野の園へ流しつゝの流〇稱德天皇紀神護景雲四年八月癸巳ノ條

〇桓武天皇  
光仁天皇紀 寶龜四年正月戊寅立中務卿四品諱〇山部親

皇ナリ天為皇太子 同書 天應元年夏四月辛卯云是日皇太子受禪即位

皇位繼承篇 卷之二

アルハ踐祚ヲ  
イヘルナリ

○平城天皇

桓武天皇紀 延曆四年十一月丁巳詔立安殿親王○平城天皇ヲイフ

為皇太子

桓武天皇紀 大同元年三月辛巳云天皇○桓武天皇ヲイフ崩於正

寢春秋七十皇太子哀號擗踊云而遷於東廂次壘并劔櫃近

衛將監從五位下紀朝臣繩麻呂云相副從之

○仁明天皇

日本紀略 弘仁十四年夏四月壬寅皇太弟○淳和天皇ヲイフ出自東

宮遷御内裏云○淳和天皇ノ已酉天皇受讓并定皇太子正

良親王ニテ即事告于柏原山陵

仁明天皇紀條首天長十年春二月乙酉皇帝○淳和天皇ヲイフ於淳和

院讓位于皇太子

○文德天皇

仁明天皇紀 承和九年八月乙丑云是日立皇太子○道康

テ即文德天皇ナリ

同書 嘉祥三年三月巳亥云帝崩於清凉殿○仁明天皇ノ崩御ヲイフ

時春秋卅一云左右近衛少將各一人率近衛等陣於皇太子

直曹參議從四位上左兵衛督藤原朝臣助云等賣天子神璽

寶劔符節鈴等奉於皇太子○文德天皇ノ皇位ヲ繼承セシヲイヘリ

○清和天皇

清和天皇紀條首嘉祥三年十一月二十五日立為皇太子云

○惟仁親王ニテ天安二年八月廿七日文德天皇崩冷然院親

成殿從五位上守左近衛少將兼美濃介良岑清風云各率將

監將曹近衛等陣於皇太子直曹于時春宮帶刀舍人解陣退散

大納言正三位兼行右近衛大將民部卿陸奥出羽按察使安倍

朝臣安仁 云 奉天子神璽寶劍節符鈴印等於皇太子直曹清  
和天皇ノ皇位ヲ継承セシヲイヘリ

○陽成天皇

陽成天皇紀 首條 貞觀十一年二月一日天皇立為皇太子誕育  
三月矣十八年十一月二十九日九歲是日出自深殿院御鳳輦  
歸東宮百官供奉如常 ○陽成天皇ノ皇位ヲ継承セシヲイヘリ

○宇多天皇

光孝天皇紀 仁和三年八月廿六日天皇聖體乖豫是日立第  
七皇子諱 ○定省親王ニシテ 為皇太子  
大鏡卷一 五十九代つぎはみうと亭子のみうと云 ○宇多天皇  
皇ヲ仁和三年戊申八月廿六日東宮よとせ給ひと同日  
即位しつる世給ふ御歳廿三云

○醍醐天皇

日本紀略 醍醐天皇 云 寬平五年四月十日詔 ○宇多天皇  
遣使於諸陵告以親王可為皇太子之由同十四日策立為皇太

子 ○敦仁親王ニシテ 云 九年七月三日 云 午三刻太上天

皇 ○宇多天皇 讓天祚于紫宸殿傳國詔命

○朱雀天皇

日本紀略 朱雀院 云 延長三年十月廿一日為皇太子 ○年三

明親王ニテ即八年九月廿二日先帝 ○醍醐天皇 逃位讓皇太子

八年 ○朱雀天皇 ナリ

○冷泉天皇

日本紀略 冷泉院 云 天曆四年七月廿三日於外祖右大臣

第立為皇太子 云 ○憲平親王ニテ 康保四年五月廿五日已

時天皇 ○村上 崩於清涼殿 年四 子討奉璽劍於皇太子直曹

襲芳舍

日本紀略

○花山天皇

日本紀略 花山院 云 安和二年八月十三日為皇太子 〇年二  
貞親王ニテ即永觀二年八月廿七日先皇 〇圓融ヲ讓位於今  
花山天皇ナリ 帝先帝廿六今帝十七 〇今  
帝ハ即花山天皇ナリ

○一條天皇

日本紀略 一條院 云 永觀二年八月廿七日立為皇太子 五年  
即一條天皇ナリ 寬和二年六月廿三日花山天皇偷出禁中奉  
劔璽於新皇 一年七 〇新皇ハ即外祖右大臣ヲ兼家參入令固禁  
内警備翌日行先帝讓位之禮

○三條天皇

日本紀略 三條院 云 寬和二年七月十六日於外祖攝政右  
大臣南院第加元服此日立為皇太子 年十一 〇即位 〇三條天皇ナリ 寬  
弘八年六月十三日一條院天皇逃位於新皇 〇新皇ハ即三

○後一條天皇

日本紀略 後一條院 云 寬弘八年六月十三日一條天皇讓  
位於三條天皇 策命為皇太子 年四 〇即位 〇敦成親王ニシ 長和五年  
正月廿九日未射三條院天皇逃位讓皇太子于時皇太子春秋  
九歲

○後冷泉天皇

扶桑略記卷廿八 後朱雀天皇 云 長曆元年八月十七日以  
親仁親王 〇後冷泉天皇 立皇太子年十三歲  
同書 後冷泉天皇 云 寬德二年乙酉正月十六日受禪年廿  
一歲

○白河天皇

扶桑略記卷三十 後三條天皇 云 延久元年四月廿日以今  
上第一皇子貞仁親王 〇白河天皇 立皇太子



同書 白河天皇 云 延久四年壬子十二月八日踐祚年二十歲

○堀河天皇

百練鈔 白河天皇 云 應德三年十一月廿六日天皇讓位於

善仁親王 ○堀河天皇 先為皇太子由載宣命

○鳥羽天皇

百練鈔 鳥羽天皇 云 康和五年八月十七日為皇太子 ○宗

王ニテ即鳥羽天皇ナリ 嘉承二年七月十九日踐祚 五

○崇德天皇

百練鈔 鳥羽天皇 云 保安四年正月廿八日天皇讓位於第

一親王顯仁 皇五○崇德天皇 先為皇太子之由載宣命

○二條天皇

百練鈔 二條天皇 云 久壽二年九月廿三日為皇太子 ○親守

○六條天皇

百練鈔 二條天皇 云 永萬元年六月十七日 ○版本廿七日

於閑白第定立太子事 云 ○順仁親王ニテ 廿五日讓位於

第二親王順仁 ニ歲 先雖可有立坊主上皇 ○二條天皇 依御不豫危

急俄有此儀二歲例今度始之 ○六條天皇 代要記帝王編年記等

ニ見ユ然ラバ百練鈔ノ説ハ龜漏ナラン

○高倉天皇

百練鈔 高倉天皇 云 仁安元年十月十日為皇太子 ○憲仁

テ即高倉天皇ナリ 同三年二月十九日受禪 八歲

○安徳天皇

百練鈔 安徳天皇 云 治承二年十二月十五日為皇太子 ○諱

仁親王ニテ即安徳天皇ナリ 同四年二月廿一日受禪 三

○後鳥羽天皇

皇年代略記 後鳥羽院諱尊成云 壽永二年卯癸八月廿日子

踐祚於閑院 依舊主皇○安德天 赴西海被下法皇天皇後白河

詔命先為皇太子 後○尊成親王ニテ即 神鏡劔璽獨不歸坐後

鳥羽天皇ハ後白河法皇ノ羽親命アリト雖ルベシ初ハ

○土御門天皇

皇年代略記 土御門院諱為仁云 建久九年正月十一日酉巳

受禪於閑院 兼日先立親王立坊事今日先為皇太子仁親為

王正月十一日御門天皇ナリ百練鈔ニ後鳥羽院云建久九年

年正月十一日御門天皇ナリ百練鈔ニ後鳥羽院云建久九年

シテ皇位ヲ繼承セシナリテ而馬無先規事欤トアルハ粗漏ナ

○仲恭天皇

百練鈔 佐渡院云 建保六年十一月廿六日被行立太子節

會即仲恭天皇ナリ承久三年四月廿日今日有御讓位事申刺

内大臣以下參入 次殿大皇太子懷成御閑院被渡劔璽

○四條天皇

百練鈔 堀河天皇云 寬喜三年十月廿八日今上第一親王

為皇太子 秀仁親王ハ 貞永元年十月四日於閑院受禪ニ歲

○後深草皇

百練鈔 後嵯峨院云 寬元元年八月十日今上第一皇子久

仁有立太子事 後深草天皇ナリ

同書 後院上皇ヲイフ天 寬元四年正月廿九日受禪

○後宇多天皇

皇年代略記 後宇多院云 文永五年八月廿五日立太子

仁親王ニテ即後 宇多天皇ナリ

踐祚部類鈔 後宇多院文永十一年正月廿六日受禪

○伏見天皇

皇年代略記 伏見天皇 云 建治元年十一月五日立太子 〇

仁親王ニテ即 伏見天皇ナリ 踐祚部類鈔 伏見院弘安十年十月廿一日受禪

○後伏見天皇

皇年代略記 後伏見院 云 正應二年四月廿五日立太子 二

〇亂仁親王ニテ即 後伏見天皇ナリ 踐祚部類鈔 後伏見院永仁六年七月廿二日受禪

○後二條天皇

皇年代略記 後二條院 云 永仁六年八月十日立太子 〇 邦

王ニテ即後二 條天皇ナリ 踐祚部類鈔 後二條院正安三年正月廿一日受禪

○花園天皇

皇年代略記 華園院 云 正安三年八月廿四日立太子 〇 富

王ニテ即花 園天皇ナリ 踐祚部類鈔 花園院 云 德治三年八月廿六日受禪 〇 德治

即延慶元 年ナリ 〇後醍醐天皇 云 德治三年九月十九日立太子 〇 尊

皇年代略記 後醍醐院 云 德治三年九月十九日立太子 〇

治親王ニテ即後 醍醐天皇ナリ

踐祚部類鈔 後醍醐院文保二年二月廿六日踐祚

○後村上天皇

神皇正統記下卷 さきしもやむづきあはれとて隆興

〇後村上天皇ナリ即 又東く向をく免 隆興とてさき定め

あはれ左少將顯位朝臣中将将了 隆興とて後三位叙

陸奥如分海守將軍を遣つてつゝのたまはる云親王ハ  
 儲君よき世孫少き者申さる世孫ひき云云云ニツ  
 能身あるも風を東西吹まけらるす急の世ハ  
 めつゝなるを侍りき儲君君を定らせ  
 後ひき例あり都の御住居もつゝとおおえし  
 皇を神のともを申させ後ひきなるべし後  
 芳野つゝせ海りし御目の前を位を継せ  
 後ひきはつゝおもひあつせられたるたふとくも  
 侍るかな

南方紀傳上卷 延元四年八月九日南帝  
〇後醍醐天皇ヲイフ 御年十二  
 同十五日義良親王ハ即後村上天皇ナリ 踐祚左大臣經元公  
 能直子遷坐之種の神器を授らせ後ひき  
 〇後龜山天皇

南方紀傳上卷 南朝正平廿四年北朝應安二年  
 云 三月十日南帝〇後村上天皇 崩御云云  
〇正平廿四年トア 事記ニ正平廿三年トア 後醍醐院能直子御治世の中  
 御位を譲らせ後ひきなり同月云云南帝のち子  
 熙成親王〇後龜山天皇 受禪〇天皇ノ皇位ヲ継承セシコト  
 二天日三年四月 後龜山院後村上院 正平廿四年三月トア  
 廿九日ヲ是トス 後龜山院後村上院 左大臣經元公の女〇後村  
 上天皇ノ讓ヲ受ケシハ後龜山天皇ナリト此ノ如ク記シ  
 テ混ルコト無キヲ大日本史卷七十一ニ後村上天皇ノ讓  
 ヲ受シ者ハ長慶天皇ト為シテ曰久諸書不載受禪即位然後  
 村上帝崩承統者天皇也故書于此其餘例當書而不書者南遷  
 以後載籍不備無所  
 考證トアルハ失考  
 細々要記卷六 應安二年 南方正平二月南山ノ帝〇後村上  
 フ御不豫タリト云云三月十一日南山ノ帝崩御壽四十三ト  
 云云同十三日如意輪寺ニ葬リ奉ルト云云先帝後醍醐御遺  
 勅ニヨツテ御在世ノ中御讓位ナクマタ御剃髮ナシト云云



武德編年集成卷四十八 慶長五年十二月十二日當今陽成後  
 天皇ヲ第二ノ皇子政仁親王儲王ニ定メラル御母近衛殿信  
 尹公ノ女也當今御愛君ニテ最初皇太子タルベキ所菊亭右  
 大臣晴季公德善院玄以ト胥議シ太閤秀吉へ告ケ第一ノ皇  
 子良仁親王母ハ中山大納ヲ皇太子ニ立ラル元ヨリ此ノ叡  
 慮ニ應ゼザル故頃日近臣ヲ以テ神君ヲ家康へ密詔アハ神  
 君曰凡子ヲ知ルハ父ニ如ハナシ臣モ亦男子多シト雖ドモ  
 繼嗣タルハ臣ガ心ニ在ルノミ第一第二ノ皇子ノ内皇太子  
 タラシハ孰レ成トモ叡慮ニ任セラルベシ殊ニ政仁親王母  
 君貴キ上ハ猶更然ルベシト奏セラレケレバ大ニ叡感有テ  
 此御沙汰ニ及フト云云  
 皇胤紹運錄 後水尾院諱政仁云慶長十六年三月廿七日  
 受禪十六

國史徳并厚卷一下 慶長五年十二月皇子政仁為皇太子云  
 慶長十六年三月二十七日天皇〇後陽成天傳位于皇太子

〇後光明天皇

寬永廿年天皇踐祚記 御讓位宣命〇明正天皇ノ皇位ヲ後  
 現神止大八洲國所知倭根子天皇我詔旨止良万勅命乎親王  
 諸臣百官人等公民衆聞食止宣朕以薄德氏天日嗣乎承傳賜  
 倍事漸送年序利愚昧之身波此位尔不可堪止歎畏賜天比避  
 皇位賜比南所念行天那隨法尔可有政止為天紹仁親王乎  
 皇太子止定賜天比此日嗣乎授賜布衆諸此状乎悟氏清直乃心  
 持氏皇太子乎輔導岐仕奉氏天下乎平久令有與但攝政藤原  
 朝臣波朝之重臣利奈見其誠心尔幼主乎寄託志都然則皇太子  
 乃未親萬機之政間保輔幼主天攝行政事世倍志一如忠仁公故  
 事世天下毛教訓直天之各已祖乃門乎不滅須弥高尔仕奉利欲

皇仁親王傳 卷之三

繼止思慎天無貳心天之仕奉倍之詔布天皇我敕命乎眾聞食止  
宣寬永廿年十月三日後○紹明天皇ナリ  
後淨明珠院攝政記 寬永廿年十月三日御讓位云敕符云  
云今日避位讓位○明正天皇ノ傳皇太子後○紹明天皇ナリ即當此  
際會疑驚物聽仍為警固彼國差件人賚木契發遣國宜承知依  
例施行敕到奉行

○東山天皇

皇胤紹運錄 東山院諱朝仁云天和三年二月九日立太子

九歲云貞享四年三月廿一日受禪

野史卷十四 東山天皇諱朝仁靈元帝第四子也云延寶三

年九月三日生稱五宮新上西門院子養之天和二年三月為儲

君〇儲君ハ中古ニ所ニ謂ル皇太子ノ條下ニ辨ズ六月徙居東宮

新殿十二月始讀書為親王三年二月立為皇太子云貞享四

年正月移禁中尋冠三月二十一日皇太子受禪

○中御門天皇

皇胤紹運錄 中御門院諱慶仁云寶永五年二月十六日立

太子八歲同六年六月廿一日受禪九歲

○櫻町天皇

皇胤紹運錄 櫻町院諱昭仁云享保十三年六月十一日立

太子云同廿年三月廿一日受禪

○桃園天皇

皇胤紹運錄 桃園院諱遐仁云延享四年三月十六日立太

子同年五月二日受禪

○後桃園天皇

皇胤紹運錄 後桃園院諱英仁云明和五年二月十九日立

太子十一歲同七年十一月廿四日受禪十三

○仁孝天皇

皇統御譜 今上皇帝御諱惠仁云 〇仁孝天皇文化六年三月廿四日立皇太子十歲云 同十四年三月廿二日御受禪

○孝明天皇

皇統御譜 今上天皇御諱統仁云 〇孝明天皇天保十一年三月十四日立皇太子十歲云 弘化三年二月十三日御踐祚十歲

十三朝紀聞卷七 今上天皇諱統仁仁孝帝第四子也云 天保十一年為皇太子至是繼位時年十六

皇太子皇位ヲ繼承シテ後仍天皇ト稱セザリシ事

應神天皇 天智天皇 光仁天皇 文德天皇

○應神天皇

神功皇后紀 三年春正月戊子立譽田別皇子為皇太子 〇譽

皇太子即應神天皇ナリ此ニ皇太子トアルハ先帝仲哀天皇ノ皇太子ト為スヲイフ〇仲哀天皇崩ジテ後ハ譽田別皇子然レドモ天內ニ在テ皇位ヲ繼承ス故ニ世ニ胎中天皇ト稱ス皇太子稱ス母后制ヲ稱スルコトハ十九年ニ親ラセバ仍皇太子太子譽田別皇子乃チ踐祚ス時ニ一歲ナリ

○天智天皇

天智天皇紀 七年〇齊明天皇七月丁巳崩 〇齊明天皇

太子〇天智天皇素服稱制太子齊明天皇崩ジテ後天智天皇仍皇

六年ナリ七年ニ至テ始テ即位ス

○光仁天皇

稱德天皇紀 神護景雲四年八月癸巳天皇崩于西宮寢殿春

秋五十三左大臣從一位藤原朝臣永手右大臣正二位吉備朝

臣真備云等定策禁中立諱皇光仁天皇為皇太子左大臣從一

位藤原朝臣永手受遺宣〇稱德天皇曰今詔久事卒爾有依

天諸臣等議天白壁王波諸王乃中尔年齒毛長奈又先帝乃功



毛在故<sup>ル</sup>太子止定<sup>テ</sup>天<sup>ノ</sup>奏<sup>ヲ</sup>波<sup>ヲ</sup>奏<sup>ヲ</sup>流<sup>ス</sup>麻<sup>ノ</sup>尔<sup>ノ</sup>麻<sup>ノ</sup>宣<sup>ハ</sup>給<sup>フ</sup>止<sup>ル</sup>勅<sup>ヲ</sup>止<sup>ル</sup>宣<sup>ハ</sup>天<sup>ノ</sup>皇<sup>ハ</sup>仁

諸王ヨリ太子トナリテ<sup>テ</sup>皇位ヲ繼承セシナリ<sup>テ</sup>光仁天皇紀 寶龜元年八月癸巳高野天皇<sup>〇</sup>稱<sup>テ</sup>德<sup>ヲ</sup>天<sup>ノ</sup>崩<sup>ル</sup>群臣

受遺詔即日立<sup>テ</sup>諱<sup>ヲ</sup>皇<sup>ヲ</sup>光<sup>ノ</sup>仁<sup>ノ</sup>天<sup>ノ</sup>為<sup>シ</sup>皇太子寶龜元年冬十月巳丑朔

即天皇位於大極殿<sup>〇</sup>寶龜元年八月天皇<sup>ト</sup>稱<sup>セ</sup>冬<sup>ノ</sup>同<sup>ノ</sup>年<sup>ノ</sup>十月<sup>ニ</sup>至<sup>ル</sup>テ

始<sup>テ</sup>天<sup>ノ</sup>皇<sup>ト</sup>稱<sup>ス</sup>〇文德天皇

〇文德天皇

文德天皇紀 嘉祥三年三月巳亥仁明皇帝崩於清涼殿于時

皇太子<sup>〇</sup>文德<sup>ノ</sup>天<sup>ノ</sup>下<sup>ノ</sup>殿<sup>ニ</sup>御<sup>シ</sup>宜<sup>ク</sup>陽<sup>殿</sup>東<sup>庭</sup>倚<sup>廬</sup>左<sup>右</sup>大<sup>臣</sup>率<sup>テ</sup>諸<sup>卿</sup>及

少納言左右近衛少將等獻天子神璽寶劍符節鈴印等<sup>ヲ</sup>〇皇位

ナリ須臾駕輦車移御東宮雅院陣列之儀一同行幸但無警蹕

云<sup>ニ</sup>乙巳是日嵯峨山陵暴風雷雨樹木倒仆遣中納言從三位

安陪朝臣安仁就加察視公卿奏言施事天下猶稱令旨在於視

聽有所疑請稟天旨改令代勅未之許焉<sup>〇</sup>文德<sup>ノ</sup>天<sup>ノ</sup>皇<sup>ノ</sup>位<sup>ハ</sup>仍<sup>テ</sup>皇

太子<sup>ト</sup>稱<sup>シ</sup>テ<sup>テ</sup>勅<sup>ト</sup>稱<sup>セ</sup>ガ<sup>リ</sup>シ<sup>テ</sup>夏<sup>ノ</sup>四<sup>月</sup>巳<sup>酉</sup>公<sup>卿</sup>上<sup>啓</sup>

曰<sup>ク</sup>遺制云皇太子可於柩前即皇帝位一依周漢故事<sup>云</sup>

謹奉啓以勸進令曰雖有遺詔既踰旬月况亦陵土未乾不忍即

正不聽<sup>云</sup>庚戌公卿重上啓曰臣等先已上啓具陳勸進之誠

而殿下至孝為性不忍情割久曠萬機經引數月雖云禮制亦有

權時請擇吉辰早正其位以順兆人之望以固萬國之基令曰卿

等上啓驟論中誠事緣遺詔義歸推奪今不獲已俯依來啓<sup>云</sup>

戊午帝<sup>〇</sup>皇<sup>ノ</sup>太子<sup>ヲ</sup>伊<sup>ノ</sup>皇<sup>ノ</sup>太子<sup>ト</sup>自<sup>テ</sup>雅<sup>ノ</sup>院<sup>ニ</sup>移<sup>テ</sup>御<sup>シ</sup>中<sup>ノ</sup>殿<sup>云</sup>甲子帝即

皇太子ノ群臣ノ勸進ニ從テ皇位ヲ繼承セシ事

皇太子ノ皇位ヲ繼承スルハ常典ナリ而シテ群

臣コレヲ勸進スルハ必事故アルニ繇ル次下ニ

載スル所ヲ認テ以テ其ノ概畧ヲ知ルベシ

武烈天皇 光嚴天皇

○武烈天皇

武烈天皇紀首 小泊瀬稚鷦鷯天皇 ○武烈天皇 億計天皇 賢○天

皇ヲ太子也 云 億計天皇七年立為皇太子 云 十一年八月

億計天皇崩大臣平群真鳥臣專擅國政欲王日本 云 冬十一

月戊子大伴金村連謂太子 ○武烈天皇 曰真鳥賊可擊請討之太

子曰天下將乱非希世之雄不能濟也能安之者其在連乎即與

定謀於是大伴大連率兵自將圍大臣宅縱火 云 十二月大伴

金村連平定賊訖反政太子請上尊號曰今億計天子唯有陛

下億兆欣歸曾無與二 云 日本必有主主日本者非陛下而誰

伏願陛下仰答靈祇弘宣景命光宅日本誕受銀鄉於是太子命

有司設壇場於泊瀬列樹陟天皇位

○光嚴天皇

增鏡卷九 御門 ○後醍醐天皇 遠之遷らせ給をん程この

御ふくちもおのづちありきありきありきありきありきありきありき

春宮 ○量仁親王ニテ 世をつししそと波羅まわしそ

路ふ先帝 ○後醍醐天皇 八あそはた先よおまど御やどり

芦垣をうりてをへそそまそおそそまそおそそまそおそそまそおそそま

内いささびしそと衛士のたそ火も新ごよんを流云さて

例のあづまより御使のぼしそ ○北條高時ノ使者ナリ時

秋田城跡すけさ景二階堂出羽の入道道雲とかやの者ぞ

まぬねる西園寺大納言公宗よりの申す春宮御位

まつき路ふ ○鎌倉ヨリノ使者来リテ光嚴天皇ノ

御位ノコト始テ定マルヲイフナリ さまんさ

海中といひあがりけああはと八尾をざりつるにいと先をたし

皇太弟

皇太弟ノ皇位ヲ繼承セシ事

天智天皇ノトキ大海人皇子オホシアマノ皇○天武天皇太弟タ

リ、天皇位ヲ讓ラントスルニ及テ皇子辞シテ出

家ス、而シテ後故アリテ皇位ヲ繼承ス、皇太弟ノ

稱ハ大海人皇子ニ始ルト雖トモ然レドモ皇太

弟ニテ皇位ヲ繼承セシニ非ズ、故ニ省テ此ニ舉

ゲズ

嵯峨天皇 淳和天皇 村上天皇 圓融天皇

後朱雀天皇 後三條天皇 近衛天皇 順徳天皇

龜山天皇

○嵯峨天皇

日本紀略日本逸史卷十七所引

賀美野天皇

嵯峨天皇

諱賀美野

云

延曆

二十二年正月云

平城天皇之即位立為皇太弟

類聚國史卷廿五

大同四年夏四月丙子朔天皇

○平城天皇

從去春寢膳不安遂禪位於皇太弟

○淳和天皇

日本紀略日本逸史卷廿一所引

天高讓彌遠天皇

淳和天皇

諱大伴

云

弘

仁元年九月庚戌立為太弟、同十四年夏四月壬寅皇太弟出自

東宮遷御内裏○淳和天皇ノ皇位ヲ繼承スルヲイフ

○村上天皇

皇年代略記

村上天皇諱成明

云天慶七年四月廿二日立

皇太弟十九元三品大宰師、朱雀天皇ノ子、以舍弟為子立之

日本紀略 朱雀院云天慶九年四月廿日天皇逃位於皇太

弟成明親王、詔止太上天皇号遷御綾綺殿今上廿一新帝○村

皇上表再謝推讓、勅不許繼承○村上天皇ノ皇位ヲ

同書 村上天皇 云 天慶七年四月廿二日立為皇太子 御九年  
○皇太子トアルハイカバ 九年四月十三日受禪 御年廿一日  
皇太弟トアルベキナリカバ 九年四月十三日受禪 御年廿一日  
トアルハイカバ 四月廿日ヲ以テ是トス  
リ、大日本史モ亦四月廿日ヲ以テ是トス

○圓融天皇

日本紀略 圓融院 云 康保四年九月一日立為皇太弟 九年云  
云 安和二年八月十三日冷泉院天皇逃位讓於天皇于時新帝  
年十一、新主於襲芳舍受禪

○後朱雀天皇

日本紀略 後一條院 云 寬仁元年八月九日皇太子敦明親  
王院○小一條請退儲皇即日立帝同胞弟敦良親王院○後朱雀天  
為皇太弟九年即任坊官等

扶桑略記卷廿八 後朱雀天皇諱敦良 云 長元九年丙子四  
月十七日受讓年廿八歲

○後三條天皇

扶桑略記卷廿八 後朱雀天皇 云 寬德二年乙酉正月十六  
日天皇讓位於皇太子親仁親王院○後冷泉天 同日第二皇子尊  
仁親王院○後三條天 立皇太子年十二歲

同書卷廿九 後三條天皇 云 治曆四年戊申四月十九日踐  
祚 生年 廿五年

○近衛天皇

皇年代略記 近衛院諱體仁 云 保延五年八月十七日為皇  
太弟一、崇德雖皇子坐依云 云 永治元年十二月七日受禪 三  
今鏡ハ重の 今孫女院美福 時めのせ給ひて近衛のみらど生

より上達カニタチ 郡さまカニタチ 同くまあり集るふ内崇より院鳥  
度く御仗カニタチ みるる人孫中務少輔師とのゆふ人カニタチ

あるり、又六位の藏人御書さへげつゝある。程より日暮がく、あを  
神皇寶劔など東之近き御所昭陽舎へ上達御引續き  
と返り給ひり。みづの御所や、あひ古例あきとく皇太弟  
とを宣命ふい載られ侍りり。

○順德天皇

皇年代略記 順德院諱守成云 正治二年四月十五日立太

弟四云 承元四年十一月廿五日受禪十四、今上雖有繼嗣

○龜山天皇

皇年代略記 龜山院諱恒仁云 正嘉二年八月七日立皇太

弟十一、後深草雖有繼嗣 正元元年十一月廿六日受禪十一

皇嫡孫

皇嫡孫ノ皇位ヲ繼承セシ事

文武天皇 後陽成天皇

○文武天皇

文武天皇紀首條 天皇日並知皇子之孫 天皇日並知皇子之孫 天皇日並知皇子之孫

人天皇皇ヲイフ天之孫日並知皇子尊之第二子也 高天原

廣野姫天皇皇ヲ持統天 十一年立為皇太子、八月甲子朔受禪即

位 神皇正統記中卷 第四十一代持統天皇云 皇太子草壁皇子加之

海 正月一日即位大和藤原の宮ふま、草壁皇子皇子ハ

ちふよ立給ひ、世をはやく、治少依、皇太子

糺王を皇太子と爲、文武小海、第四十二代文武天皇

云 天武天皇は嫡孫あり、云 丁酉の年即位藤原の宮に

海 云

○後陽成天皇

正親町天皇之孫 誠仁親王之子

皇胤紹運錄 後陽成院諱和仁後改周仁云 天正十二年正月十五日為親王、同十四年九月廿日御元服、同年十一月七日受禪

池江藤原卷十三

文月〇天正十四年七月ナリ、王〇誠仁親は内孫一の宮

即陽光院贈太 陽れさせ給へる、王〇誠仁親とあり、王〇誠仁親とあり、王〇誠仁親とあり、

思ひまじむたり、皇〇正親町天もけふあす獲らるせ給へる、

きをあらう給へる思ひ、皇〇正親町天もけふあす獲らるせ給へる、

めもあつりけれ、皇〇正親町天もけふあす獲らるせ給へる、

去上天皇〇誠仁親王ニ尊号 給へる、皇〇正親町天もけふあす獲らるせ給へる、

とナリ、皇〇正親町天もけふあす獲らるせ給へる、

ち、皇〇正親町天もけふあす獲らるせ給へる、

は此等、皇〇正親町天もけふあす獲らるせ給へる、

給へり

日嗣皇子

日嗣皇子ノ皇位ヲ繼承セシ事

應神天皇 用明天皇

〇應神天皇

仲哀天皇紀

八年九月巳卯詔群臣以議討熊襲、時有神託皇

后〇神功皇而誨曰、天皇何憂熊襲之不服、是齋之空國也、豈足

舉兵伐乎、愈茲國而有寶國、譬如美女之、云有向津國、云是謂

擗衾新羅國焉、云時神亦託皇后曰、云我所見國何謂無國

以誹謗我言、其汝王之如此言而遂不信者、汝不得其國、唯今皇

后始之有胎、其子皇〇應神天有獲焉、然天皇猶不信、以強擊熊襲

不得勝而還之

九年春二月丁未天皇忽有痛身而明日崩、〇仲哀天皇崩、而

ル者ハ應神天皇ナリ、時ニ天皇未皇紀六年十二月ノ在リ、天皇胎

中ニ在テ皇位ヲ繼承ス、繼體天皇紀六年十二月ノ在リ、天皇胎









